

資源循環論2024後期講義内容

1. 健康・環境面で安心して購入できる食品と環境配慮型製品（生活用品など）の生産と販売
2. 商品選択における消費者の行動変容を生み出す仕組み

資源循環論の講義は、後期・火曜日・2限です。

- ✓ 一般的な講義に加え、課題制作と発表、グループワーキングでの討議と発表、個人で行った研究発表を行います。
- ✓ 2024年9月からの講義では、2つのTOPICS TO CONSIDERから、答えを導き出します。
- ✓ **THE FIRST TOPIC TO CONSIDER:**
人と生態系の健康に配慮し、生物多様性保護に配慮した安心で安全な食品、環境配慮製品(生活用品など)が生産・販売されるには？
- ✓ **THE SECOND THEME TO CONSIDER:**
環境に配慮した食品や製品を消費者が好んで選択し、購入するようになるには、どうすれば？
消費者の行動変容を起こす「社会的メカニズム」をどのように創りだせばよいのか？

講義の最終目標

- 食品・生活用品では有害物質を含まず持続可能な資源フローに基づき食品や生活用品が作られたか否かという点は、大気汚染と気候変動の同時削減に不可欠な視点です。温室効果ガスの削減だけでなく、PM2.5、PM10、NO_x、SO₂、CO等の大気汚染物質との同時削減を行うことで地球規模の温暖化を緩和に近づけることができます。
- 特に化石由来のプラスチック容器包装やごみ袋等が捨てられ砕かれたマイクロプラスチックAMPs (Airborne MicroPlastics) 大気に放出されて大気汚染と海洋汚染を引き起こす深刻な原因になっています。
- 普段使用する生活用品等の生産・使用・廃棄の段階で排出され、環境に影響する問題をどのように改善すればいいのか？食品や生活用品に有害な化学物質、無害でも多くの化学物質が使用されています。
- 有害な化学物質の制限、無農薬や低農薬による農業普及、低エネルギー製法、持続可能な資源開発利用、脱化石燃料由来のプラスチック推進等、環境負荷を低減する手法が採り入れられるようになりました。
- このような食品・製品に関する情報や知識をどのようにして獲得し、製品の見える化（可視化）を通じて、消費者の意識変化を促し、行動変容を促すような社会の仕組みを考えることが重要な学習目標です。